



N-HOUSE 太陽光発電装置と換気、調湿、熱回収機能を有するシャフト 撮影：佐藤信太郎

今月のトーク/monthly talk

温暖化

暖冬です。関東から九州にかけて例年より20日も早く、春一番が吹きました。初雪の前に吹いたのは観測史上初ということです。

人の暮らしも、家の作りも、季節の繰り返しがあるからこそ、受け継がれてきたものです。言い伝えられることがあってこそその文化です。季節感を反映するものが価値となり、仕事を生み、暮らしを支えてきました。それが気候が徐々に変化していくとしたら、私たちの文化そのものが変化していくことになります。

世界にはいろんな気候の場所があり、その土地固有の文化があります。温暖化による海面上昇により国土そのものを喪失してしまう危機的な状況だけでなく、年間の平均気温が何度か上がることだけでも失うものがあるのです。

農作物一つとっても、例えば冬には鍋物といった定番もののメニューがありますが、こう暖かくては食卓にのぼる機会は減り、材料である白菜も取れすぎて値崩れしています。今この場所にあるものが将来、そぐわないものとなってしまうかもしれないということは、それに付随するあらゆるものが失われていくこととなります。

環境の変化に適応していくことで、いつのまにか「どの気候でも大丈夫、どこにあっても同じ」ものが流布し、「季節感のない文化」を当たり前と思う人たちが増えてきたとしたら、どんな世界になるのでしょうか。温暖化の行き着く先で受け継ぐ文化とは、いったい何を基準においたものになるのでしょうか。

気候変動が人的要因によるものであることは、世界各国で一致した

認識になっています。人間の存在そのものがそもそも自然環境に悪影響を及ぼしていることは否めません。一方で、「経済の成長が必ずしも人を豊かにしない」ことが様々な事例で明らかになってきています。むしろ生態系への影響を最小限にする暮らし方をデザインすること、それを実践することが将来に向けて求められています。

今月ご紹介する、N-HOUSEの設計者、細江英俊氏は取材の中で、「環境を守る循環型社会形成に向けて、ロハス(Lifestyle of Health And Sustainability)というマーケティング要素の強い用語がはやっていますが、我々建築設計者や施工者が求められている使命は、むしろサステナビリティSustainability(持続可能なこと)の部分です。このサステナビリティを意識して、実践することが大切であると感じています。」と話してくれました。

そして「エコロジカルデザイン」という本の翻訳者であり「サステイナブル建築」の著者林昭男氏の言葉を借りて、建築家の使命を「自然と文化の橋渡し」であるとともに、実務的には「自然と文化と経済の橋渡し」であるべきだと言います。

「初期の建築事業費の短期回収や、建物の解体しやすさ、耐久年数など、時間軸での経済性の判断センスを持つこともサステイナビリティーの一つと捉えていいのではないかと分析します。

建築だけではなく、様々な場面でサステイナビリティーという言葉聞くようになりました。そこには個人差があり、その切り口は人それぞれです。あらためて、自分にとってのサステイナビリティーを考えてみませんか。

N-HOUSE



ライフステージに柔軟かつ安全に配慮した都市型住宅

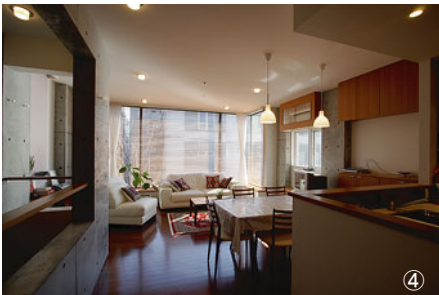
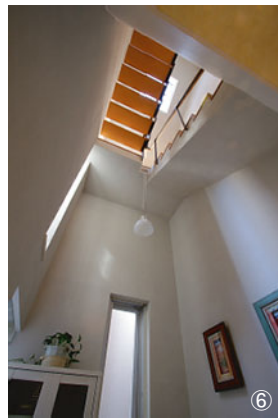
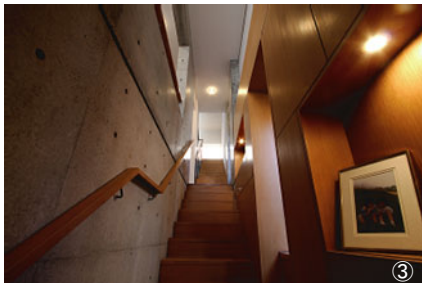
現在それぞれ仕事を持つ建て主夫妻は、親戚の家に隣接する土地を取得する機会を得て、ご自身のこだわりを反映できるオーダー住宅の建設を希望されていた。長い将来にわたって住み続けられるよう、耐震性のあるRC造、そしてライフスタイルの変化を受け入れるフレキシブルなプランの建物が求められた。

1階は道路側に駐車スペース、奥に落ち着きのある居住スペースを配置し、2階は南側前面に張り出し、大開口による自然光の入る、開放的なリビングを配した。3階は、北側の親戚の家への日差しや圧迫感に配慮した平面計画とした。

3フロアを繋ぐ階段空間を、機能だけでなく、日常生活に潤いを与える空間として、アートや飾り棚などのあるギャラリー空間としている。踊場には腰掛けられる窓台、スタンドグラスの出窓も用意してある。

また、階段室は、室内環境調整機能として利用した。1階のDKエリアは開放的な階段とともに3層の吹抜(シャフト空間)となっており、また、上部トップライトにチルド機能を持たせ、夏季の熱気放出、中間期の自然通風をもたらす。冬季に上部に溜まる暖気は、熱回収ダクトファンにより1階DKへ戻し、エネルギーロス削減を計画している。このように、階段をデザインとしても、空調のための調整空間としても有効活用するのは、都市型住宅のひとつの基本的解答であるかと思う。

外壁、および構造壁、柱、梁、床はコンクリートで作成し、それ以外の内装材は、将来の変更に対応しやすい材料を選定した。また、各階の水周りレイアウトの変更をしやすくしただけでなく、フロアの水損防止も考慮している。構造体の柱はコンクリート打ち放し仕上げとして、床材、家具材の木質系内装とのコンビネーションを配慮した。(細江英俊)



所在地：豊島区 用途：専用住宅
 構造：RC造 規模：地上3階
 設計：細江英俊建築設計事務所
 竣工：2006年11月 撮影：佐藤信太郎

①全景。開口部を大きくとり、細長いプランの採光に配慮している。②3階個室。③3フロアを貫く階段室。建物の空調機能をつかさどり、壁面の飾り棚をギャラリー空間として利用できる。④2階リビングダイニング。⑤エントランス。前庭に浸透圧ブロックを採用している。⑥1階ダイニング吹抜。1階は奥に出入口から隣の親戚の家に繋がる庭に出られる。⑦1階個室書斎スペース。間仕切りを兼ねる本棚や机の木製家具と、壁のコンクリートの打ち放し部分の対比が落ち着いた雰囲気を見せる。

Casa do Amalia (カサ・ド・アマリア)

セキュリティに配慮した女性限定賃貸マンション



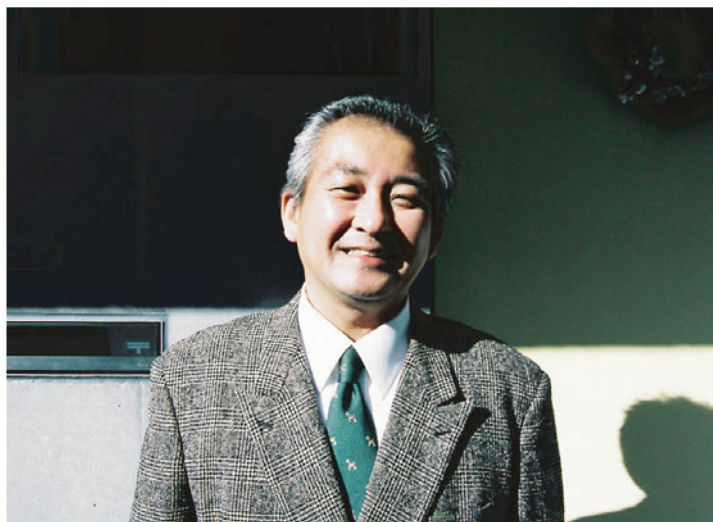
駅前の開発が進む、東急目黒線「武蔵小山」駅から徒歩5分、ピンク色の外壁タイルに包まれたおしゃれな賃貸マンションが完成した。ユニホーがこの地域で企画を展開する賃貸マンション第2弾。最上階にオーナー邸を擁し、1DK9戸の居住者は女性限定として、セキュリティに配慮した仕様になっている。オートロックはもちろん、各戸ともモニター付きインターホンや二重ロックを装備。またエントランス、エレベータ、建物周りを常時監視する録画カメラを設置、居住者は映像をエントランスホールで確認できる。ALSOK総合警備保障の24時間非常通報システムをしいており、万が一のときにはすぐに警備員が駆けつけることになっている。

1戸当たり10坪前後の広さで収納も多く、特に全戸に用意された専用トランクルームは、ものが多くなりがちな女性にとってありがたいスペースとなることだろう。(設計担当:辰南 新一郎)



所在地：品川区荏原3-1-2
 用途：共同住宅
 構造：RC造
 規模：地上5階 1DK 9戸
 設計：株ユニホー一級建築士事務所
 竣工：2006年12月
 撮影：間瀬 憲隆 / Studio ミュー

①北東側外観。ピンク色のタイルが優しい印象。建物周囲にも侵入防止フェンスを設けている。
 ②エントランスホール。③専用トランクルーム。



細江英俊 profile

1960年 東京都生まれ
 1983年 早稲田大学理工学部建築学科卒業
 坂倉建築研究所入社
 2001年 同社 退社
 2003年 細江英俊建築設計事務所設立

主な作品
 2004年 Dear日本橋タワー（リボックス建築環境計画と共同設計）
 2005年 テクマトリックス本社移転プロジェクト
 2006年 コーポレートアートスペースプロジェクト

主な受賞

「埼玉県立加須青年の家」（坂倉建築研究所） 公共建築賞受賞
 「横浜人形の家」（ ） BCS賞、商環境環境デザイン賞受賞
 「静岡文化芸術大学」（ ） 公共建築賞優秀賞受賞

今月は、N-Houseを設計された、細江英俊さんにご登場いただきます。

ー細江さんは、早稲田大学卒業後、坂倉建築研究所に入社されています。

細江:2001年までプロパーとして勤めさせていただきました。いろんなお客様とおつきあいでいく中で、リーシングも含めて建築の経済的な側面も大事だと感じ、退社後1年ほど建築プロジェクトの経済的側面を勉強して、自分の事務所を設立しました。今年で4年目ですね。

ーホームページを拝見しましたが、お客様の立場に立ったプロジェクトマネジメントの重要性を強調されていますね。

細江:設計者としての世の中に対しての提案というものも最終的にありますが、まずお客様に与えられた条件によりどんな建物を建てるかという判断材料が必要です。実際の建築を建てるよりも手前の部分を大事にしたい。極端なことをいえば、建物を建てない場合もありますね。個人的な資質として、そういうことを含めたポータル的な役割も大切にしていきたいと考えてようになってきました。坂倉事務所ではもちろん意匠も大事なんですけど、ヒヤリングを重視していく姿勢を学ばせてもらいましたから。また意匠でもいろんな世界があり、自分のネットワークの中でお客様にあった人のご紹介も出来ればいいと思っています。世代的なミッションというか、今まで先輩・後輩という意識はなかったけれど、このごろはちょっと年をとったせいか、若い人との関係も大事にしています。設計者は「建てる」ということに対して、広範囲な要求をされていると感じることがありますからね。

ーネットワークといいますと・・・

細江:例えば、日本橋のこの事務所には、普通の住宅以外に、いわゆるグループホームなど高齢者・障害者の新しい住まい方や、若い人の暮らす独立マンション系なども企画する、私とフィールドが少しずつ違う仲間たちが集まっています。建築の中のグループとして一緒に仕事していければと思います。やはり同じ空間の中にいると、何かとチャンスも生まれますね。空間を共有することは、情報交換だけでなく、刺激にもなり、お客様にもより良いサービスを提供できると思います。

ー新しい事務所ではこれまで住宅を主に設計されてきたのですか。

細江:住宅とは限らず、事務所空間、店舗系、飲食関係もやっています。昨年前半は、あるIT関連の会社の移転に際して社内ギャラリーを設け、会社の中にアートキーワードとしたサービスの展開を提案しました。健康ビ

ジネスが、食・美・健康などボーダーレスに結びつけて発展しているように、アートを中心に、企業イメージを高めたり、社員の創造力を刺激したり、また集客をあげることで地域のポテンシャルを高めることが出来るというものです。「過去のアートは美術館の中に、新進気鋭の作家の作品は企業の中に」という経営者の言葉が、新しい企業風土に表れています。

私自身も、「NPO法人アート農園」という組織の理事をしています。あらゆる文化・生活・芸術分野における事業の可能性を探るものです。アートを基にした廃校再利用や住民参加型の新しいビジネスを提案しており、このギャラリーのプロジェクトも、そのご縁で出来たものです。

ーアートを軸にした地域活性プロジェクトは、今いろいろな地方で試みられているようですね。

細江:設計の視野を広げるためにも時々学んだことをレポートにまとめていますが、昨年環境問題と建築についてお話をする機会があって今回改めてまとめてみました。実は建築行為自体、所詮環境に対して負荷を与えるネガティブなものという意識が自分にはあったのですが、整理していくことでサステナビリティ(持続可能な循環システム)も意識の問題であってどのようなプロジェクトにも可能性があるかと再発見した感じですね。

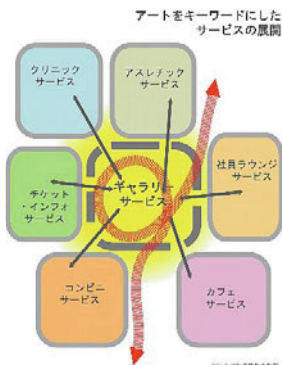
例えば、今回のN-Houseでは、当初からお客様の要望であった太陽光発電以外にも、熱回収ダクトシステム、防臭調湿性のあるシラス壁や雨水浸透ブロックなど環境に配慮したシステムや材料をお客様の理解のもとに採用しました。グローバルスタンダードの弊害が叫ばれる中、いわゆる『地域性』をキーワードとして経済を考えていかななくてはならないし、サステナブルも自分の目線で捕らえていくのがいいと思いますね。

本来、建築は雨風地震を防ぐ器であればいい、それ以上は負担になるという出発点がありますが、一方で経済原理の中であえて解体しやすく、材料の再利用がしやすい作り方もあります。また、構造体をコンクリートのように耐震性、耐久性の高いものとしつつ、インフィルは将来のライフステージやスタイルで変更しやすい作り方や材料を選択する方法があります。環境問題は、特別に性善説的なものではなく、このブライオリティポイントはどこにおくかという判断ですね。建物が持っている規模、時間軸、商業ベースの中で常にバランスよく判断していくことが肝心だと思っています。

ー本日はどうもありがとうございました。



コーポレート・アート・スペース プロジェクト
 ギャラリー入口



コーポレート・アート・スペース プロジェクト
 ギャラリー内部



今回の自分の現場は、品川区のコンクリート打ち放しの住宅である。古い木造の家も散見される、閑静な住宅街にある。建物前の道幅は広くはないが、車の往来も少なく、工事に特別の障害があるわけではない。

耐震、防火に配慮したいという建て主の希望をうけて、コンクリート造となったわけだが、この地域は昔の川の谷にあたる場所だといので、改めて地盤調査をしたところ、さらに地盤改良工事を行う必要が出てきた。検討・施工期間を約二ヶ月間要する。当初予定の十月末の引渡しだが、一ヶ月遅れの十二月末になるわけだが、少しでも遅れると年末年始に入り、下手をすれば一月末にずれ込んでしまう。それは何としても避けたい、と思った。

設計事務所とのVEを経て、当初から押さえたい業者を変えない(年末には工事が集中するので、逃がさない)ように、改良工事以後は順調に工事を進めることを心がけた。とにかく、毎日の段取りをきちんとやろうとがんばった。

十一月十四日(火)
午前中床の下地を貼る作業を終え、午後、明日のガラスブロック設置作業のために、もう一度足場を組み立てた。業者を新たに呼ぶ予算も時間もない。自分がやるしかない。その場の職人さん皆に手伝わってもらい、作業をすすめた。

十一月十五日(水)
ガラスブロックの設置作業。しか



佐々木 健太
何度も足場を組み立て直し現場作業の工期を守る

十一月十三日(月)
建物中央の吹き抜けの壁に、注の三百ミリ角のガラスブロックが納まることになっている。ミヤザキという限定品でインターネットのサイトで販売しているのを設計事務所が選んできたのだ。割安で購入できたらしい。地盤改良工事のVEの産物だ。

ガラスブロックは九×十六段、かなりの高さになるため、吹抜に足場を組み立ててあったのだが、今日床の下地を貼る作業があり、

業者がこれではできないというので一度その足場をはずした。

し作業者が「吹き抜け部分の幅が狭く下のガラスブロックを積むときは、足場がじゃまになる」という。また、足場をばらした。

十一月十六日(木)
ガラスブロックの目地埋め。初めに白の普通のモルタルで埋め、その後化粧モルタルで表面を押さえる作業である。また足場をかけた。調整枠足場なのでそれほど大変ではないのだが、今週だけで四回も、足場の組み立て・解体作業を行った。

十一月十七日(金)
大工さんが下地を貼って、左官屋さんが壁を塗っていく通常作業に戻った。

十一月十八日(土)
昨日と同じ。

辰の、初の新卒採用として一昨年に入社した。現場は好きだ。早いもので実務三年を経て、今年はいよいよ施工管理技士の受験資格を得る。勉強は自分でやるしかない。施工管理浪人とならないようにと思っている。

1981年生まれ 北海道出身
東京理科大学2部建築学科卒業

趣味:特になし

担当した主な物件(設計者)
王子集合住宅(長田直之)

TOPICS/INFORMATION

「S邸新築工事」 上棟式 1月30日

中野区の平和の森公園を望む好立地に建つ打ち放しの住宅です。

構造:RC造 地上3階
用途:専用住宅
設計:一級建築士事務所タステンアトリエ
完成予定:2007年3月



「神宮前S-FLAT新築工事」 地鎮祭 1月30日

神宮前2丁目の静かな環境。しかし、現在は建設ラッシュとなっています。

構造:RC造 地上3階
用途:店舗・共同住宅
設計:石川設計工房
完成予定:2007年10月



「(仮称)上目黒2-44新築工事」 地鎮祭 1月30日

2面ファサードをカーテンウォールにした全階テナントビルです。

構造:RC造 地下1階 地上6階
用途:店舗・事務所
設計:向山建築設計事務所
完成予定:2007年11月



「(仮称)等々力2丁目低層長屋賃貸住宅 新築工事」 地鎮祭 2月14日

1階より各戸にアプローチする専用階段のある賃貸ワンルーム。東急大井町線に接するため、地下1階の居室は振動に配慮されています。

構造:RC造 壁構造 地下1階 地上3階
用途:共同住宅 設計:ビルディングランドスケープ
一級建築士事務所 完成予定:2007年11月



編集後記

・前号の「私の1週間①5」に登場した若井定昭主任の名前が間違っておりました。定行ではなく正しくは『定昭』です。お詫びして訂正いたします。

